

5年生社会科 1. 3 | パネルトーク 原稿

ゲストティーチャー 吉田さん

聞き役 先生

【先生】それでは、今日は森を守る活動をしている吉田さんにお越しいただきました。

初めに自己紹介をしていただきます。吉田さん、よろしくお願ひします。

【吉田】吉田と申します。70代です。みなさん、おじいちゃん、おばあちゃんがいると思うんですけど、その方たちと同じぐらいの年代です。会の名前は「緑の地球クラブ」と申します。今回は、林業ボランティアの活動をしているお話です。私は、その会の代表をしています。今日は、みなさんと楽しくやりたいと思いますのでよろしくお願ひします。

【先生】吉田さん、本日はお忙しい中、来ていただきありがとうございます。吉田さんは緑の地球クラブを設立して、今年で20年目になるんですよね。

今回はどうして5年生のためにゲストティーチャーを引き受けたださったのですか？

【吉田】はい。大切な地球の緑に関心をもつ人が一人でも多く増えたらうれしいなと思って引き受けました。

【先生】なるほど～ ありがとうございます。

吉田さんが設立した「緑の地球クラブ」。「緑の地球クラブ」をつくろうと思ったきっかけは何だったんですか？

【吉田】はい。以前に、埼玉県のボランティアで緑の推進員というものしていたんですけども、そのときに仲間の中にいた林業に詳しいすばらしい方と出会いました。そしてこの方が「ぼくが一から林業のことを教えるから、いらっしゃい。」と言ってくださいり、その方の林業スクールに行き始めました。

そこで今は林が荒れたまま放置されていることを知りました。今では荒れたまま放置されている林でも、かつては「かまど」や「お風呂」「火鉢」の燃料にしたりとか、木を切って材木にしたりするなど、色々な使い道がありました。それが、世の中が進化や発展をとげて、あっという間に電気とガスが使われるようになります。

そうして、林は忘れられた存在になっていきます。そして、そんなときに、うまい話がくると、持ち主の方はその土地を売ってしまいます。さらに、そこには家や建物が建ちます。すると、そこに生きていた生物や植物は生きられなくなってしまいます。この繰り返しなんですね。

だから、私はこういう状況を少しでも減らしたい、良くしたいと思って、2003年に「緑の地球クラブ」を設立しました。

【先生】そうだったんですね～。人間が木々や生き物たちの行き場を無くしてしまっている現状があるんですね～。吉田さんは、そんな姿を見てさらに林や森を守る活動に力を注がれているんですね。

【先生】では、実際に「緑の地球クラブ」ではどんな活動をされているのですか？

【吉田】はい。活動しているフィールドは2か所あります。それは、内牧地区の折原果樹園のうらにあります。

フィールドにある植物は大きく分けて落葉樹と常緑樹の2種類があります。

落葉樹は春になると新緑をつけて秋になると葉を落とす木のことです。具体的には「ウワミズザクラ」「クヌギ」「イヌシデ」「ケヤキ」「ムク」「エノキ」などがあります。

また、常緑樹とは1年を通して、葉をついている木のことをいい、「マツ」「スギ」「シラカシ」「アオキ」「シイ」などがあります。また、樹木だけではなく、野草もあり、「タチツボスミレ」「ムラサキケマン」「ムラサキハナナ」「オオイヌノフグリ」などもあります。

次に作業をするときの道具と服装についてお話をします。

道具は「ノコギリ」「ナタ」「カマ」「枝切りバサミ」「ロープ」「チエーンソー」「刈払機」などがあります。

また、作業するときの服装ですが、「ヘルメット」「帽子」「長袖・長ズボンの服」「安全靴」などがあります。

【先生】本当にたくさんの色々な道具が必要なんですね。

【吉田】はい。どれも自分の身や安全を守ったり、自然を保護したりしていくのにとても大切な道具になります。

【先生】そうなんですね。それでは、「ノコギリ」や「ナタ」、また「ヘルメット」などをかぶって、実際にどんな作業が行われるのですか？

【吉田】はい。具体的な作業の内容ですが、まず、安全のために作業の前には必ず準備体操をいたします。みなさんも体育や体を動かす前には体操をしますよね。それと同じで体をよくほぐす必要があります。思わぬ事故やケガにつながらないようにするためです。安全が第一です。

(ここで道具をつけた山本先生が登場?)

そして、ヘルメットを装着して、ノコギリとナタを腰に結わき、安全靴をはきます。実際につけてみるとこんな感じです。

【先生】では、装具を身につけたあとは、どんなことをされるのですか？

【吉田】はい。まずは、木の成長を妨げる雑草や枝のように細い、背の低い木などを刈っていきます。これを下刈りや下草刈りといいます。下刈りをすることで地面がきれいになり、作業がしやすくなります。主に植物が成長しやすい春から秋にかけて刈払機を使って行います。

次に、除伐という作業を行います。これは、木を育てていくのに妨げになるような小さな木や曲がって育ってしまった木などを取り除く作業になります。この作業はノコギリやナタ、カマなどを使って行います。

そして、最後に大きくて、背の高い木で不必要的木を倒していきます。これは、間伐と言い、森や林の中で密集して生えてしまった木々を間引くことで日の光を効率的に取り入れるための作業です。こうすることで、木の成長を助けすることができます。この作業では、チェーンソーを使います。

【先生】なるほど～。一言で林業と言っても色々な種類の作業があるのですね。

先ほど、高い木を切り倒すときにはチェーンソーを使うとおっしゃっていましたが、具体的にはどのように切り倒していくのですか？

【吉田】はい。まずは「受け口」というものを作ります、木に対して水平に刃を入れ、その後斜めに切りこみを入れます。この斜めの切

り込みがある方向に木は倒れていきます。受け口が作れたら、今度は受け口とは反対側に「追い口」という切れ込みを入れていきます。追い口を少しずつ入れていくことで、木が受け口の方向に倒れていき、木を切り倒すことができます。

【先生】なんだか、大きな木を切り倒すのは迫力がありそうですね。木を切り倒すのも専門的な知識と技術が必要だということがよくわかりました。

【夢川】吉田さんはこれまで活動をしてきて、大変だったことや苦しかったこと。また良かったことはありますか？

【先生】はい。私はこの活動が大好きで今までにやめたいと思ったことは一度もありませんでした。しかし、人不足で会員さんが集まらないとき、少ない人数で刈払機をかけるのはとても大変です。みんな、もう高齢ですからね。そのときは、少し嫌になることもあります。

【先生】やっぱり、人不足と高齢化が課題なんですね。
でも、活動をしていて良かったこともあるんですよね？

【吉田】はい。活動していて良かったことは珍しい生き物たちに出会えたり、きれいな自然に触れることができたりすることです。冬になると大きなキジが現れます。オスはきれいな色をしていて、とても美しいです。メスは5～6羽の子供を連れて現れます。また、オオタカを見たこともあります。中でもオオタカとカラスの闘いは面白かったです。上空で1対数羽でやっていたんですね。タヌキもいます。ためふんを見たこともありました。また、秋になると木々の葉っぱが色づき、紅葉がきれいです。美しい紅葉を見ていると、心が癒されます。

【先生】へえ～、それはいいですね。大変な思いをしながらも、一生懸命活動をした人にしか味わうことのできない、ご褒美ですね。

【先生】吉田さんの活動は SDGs や環境問題との関わりもあるんですね？

【吉田】はい、そうなんです。みなさんも知っているかと思いますが、SDGs というのは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための共通の目標です。これは17項目あります。そして、私たち「緑の地球クラブ」は、13番目と15番目が該当しています。13番目は「気候変動に具体的な対策を」15番目は「陸の豊かさも守ろう」です。

そして、環境問題との関わりですが、私たちの活動は地球温暖化と深い関わりを持っています。現在の地球温暖化の原因は、人が作り出した温室効果ガスであることが様々な科学者の先生によって指摘されています。実は、地球上の生き物たちの命を支えているのは、植物なんです。私たちにとって最も身近な生き物は植物です。そして、私たち人間を含めたほとんどの生き物の暮らしは、植物の活動、光合成によって支えられています。私たちが吸っている酸素は、植物が作り出したものなんですね。なので、私たちの命を支えているのは植物なのです。「緑の地球クラブ」の活動は、そんな植物や自然を守る手助けをしているのです。

【先生】まさに吉田さんたちの活動は、様々な生き物の暮らしや豊かな自然環境を守ることにつながっているのですね。

【先生】最後に、これから子供たちに期待することはなんですか？

【吉田】はい。今日の話は、みなさんにとって少し難しい内容もあったか

もしれません。でも最初にも申し上げたように、私は少しでも緑に関心をもってもらいたいと思っています。そして植物を好きになってくれる児童のみなさんが一人でも多く増えてくれることを願っています。少しでもいいので、今日のことをきっかけに、ぜひ自然のことについて考えてみてください。今日は貴重な時間ありがとうございました。